

◇—————◇
公益社団法人 日本航空機操縦士協会
メールマガジン Vol.52 2019/12/16
◇—————◇

いつも JAPA メールマガジンをご覧頂きありがとうございます。

早いもので年内最後の配信となります。

2019 年は読者の皆様におかれましてはどのような年でしたでしょうか。少々早いですが、良いお年をお迎えください。

さて、今号は以下の内容でお送りします。

★—INDEX—★

- [1] 【常務理事コラム】 真の航空の裾野拡大を目指して
- [2] 【委員会便り】 航空気象委員会の活動紹介
- [3] 【安全情報】 航空局から小型機運航者の皆様へ（第 26 号：令和元年 12 月）
- [4] 【航空局からの依頼 周知事項】 「小型無人航空機 飛行情報」
- [5] 【予定】 セミナー・イベント
- [6] 【新発売】 JAPA SHOP よりご案内
- [7] 【お知らせ】 月刊エアラインへの掲載
- [8] 【ご案内】 公益社団法人 日本航空機操縦士協会 ご入会について

- ★—————
- [1] 【常務理事コラム】 真の航空の裾野拡大を目指して
常務理事 板垣 英樹

★—————

会員の皆様、平素より、協会活動へのご理解、ご協力、誠にありがとうございます。

いわゆる 2030 年問題、パイロットの人材不足が叫ばれて久しいですが、我々 JAPA も、パイロットを組織する日本唯一の公益社団法人として、航空の裾野拡大に全力を尽くしているところでございます。ただ、世間一般では、エアラインのパイロットが不足することが問題だ、事業規模の発展に養成が追い付いていない、という観点で、いかにエアライン

パイロットを増やすか、教育体制を整えるか、という議論に終始しているところがあります。しかし、それだけで本当に日本の航空産業の発展が望めるのでしょうか。

私自身、エアラインに所属しておりますが、この協会の活動に参加するようになって、エアライン以外のパイロットの方と多くお付き合いさせていただくようになりました。皆様のお話を伺うにつれ、それぞれ立派な信念の元、豊富な知識と経験から誇りとやりがいをお持ちになって、お仕事に、プライベートに、航空機の操縦に臨んでおられるなあ、と感心することばかりです。

我々、協会が目指すべきは、トップダウンでエアラインのパイロットを増やしていくことだけではないはずです。ミリタリー、自家用、事業用、使用事業に携わっているすべてのパイロットの人数を増やし、あらゆる分野のパイロットがお互いに敬意を持ち合い、垣根なく経験ややりがいを共有できる、操縦士協会がそのような場を提供できれば、真の航空の裾野拡大に一步近づくのではないかと考えています。

去る9月22日旭川空港にて、スカイスクエアという空の日関連イベントに参加してまいりました。多くのご家族連れの皆様、少年少女達と触れ合う中で、空を飛ぶということは、まだまだ今どきの子供たちにも魅力的に感じてもらえることを実感致しました。空に携わる仕事ができていることに感謝し、今後も一人でも多くの若者が、あらゆる角度から空を目指してくれるように努力して参りたいと思います。会員の皆様のお力をお借りすることも多々あるかと存じますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



[2]【委員会便り】航空気象委員会の活動紹介

航空気象委員長 山本 秀生



会員の皆様、こんにちは！航空気象委員長 山本秀生です。

航空気象委員会では原則として毎月定例委員会を開催しています。

民航パイロットやディスパッチャーをはじめ、教官、気象庁の予報官、管制官、さらに自衛官やGAパイロットなど幅広い参加者が、航空気象に関する悪天の解析と研究を中心として、活発に議論しています。朝10時から夕方18時ごろまで、入退室自由ですので japa@japa.or.jp にご連絡のうえ、お気軽にお越しください。

その他の委員会活動としては航空気象シンポジウムの主催や、AIM-J「航空気象」の編集、またJAPA主催のセミナーや講習会について航空気象分野の講師を派遣するなどして、航空気象の知識や経験を皆さんと共有し、航空機の安全運航に資することを目標としています。

去る 11 月 29 日には第 14 回航空気象シンポジウムを開催し、エンルートの乱気流をテーマとして取り扱いました。気象庁の予報官がどういった点に注目して FBJP などの予報を作っているのかということや、試験運用が拡大されつつある EDR という新しいタービュランス指標についての紹介、また JAXA で研究されている航空機搭載用ライダーや機体動揺低減技術についての講演をいただきました。また座談会では、パイロットやディスパッチャー、管制官がタービュランス事故を減らすためにはどのような情報共有のあり方が必要なのか、どのような仕組みを作るべきか、といった点について活発な意見交換が行われました。

航空気象を勉強したい、予報官の話を聞いてみたい、という方はお気軽に委員会までお越しください。



[3] 【安全情報】 航空局から小型機運航者の皆様へ（第 26 号：令和元年 12 月）



=====

～航空局からのお知らせ～

=====

操縦士の皆様へ

航空局では、自家用機を含む小型航空機の更なる安全性の向上に向けた取り組みを進めております。

今般、登録いただきましたメールアドレスあて、操縦士への直接的な安全啓発や情報発信の機能強化として、以下の情報を配信しますので、日々の安全運航の一助となりますようご活用いただければ幸甚です。

[2019 年 12 月 2 日]

★冬季運航にあたっての注意（凍結）～東京航空局 航空従事者試験官～
一年を通してタイヤバーストは起こる事がありますが、今回は冬季運航でのタイヤバースト事例をご紹介します。

【冬季運航でのタイヤバースト・・・えっ？】

冬季と言えば着氷やキャブアイスと思いがちですよね。今回は少し違います。それは関東平野が晴天で寒い日に起こりました。

セスナ（172P型）は雲一つない快晴の関東平野を航空写真の為に飛び立ち、1500Ftの低高度でのアップ写真や10000Ftの広角写真を実施して帰って来ました。気分よくミッションは終了。さあ着陸です。

“あれっ？いつもと違う” 機体は右に傾きガタガタと音をたてています。やっとの思いでランウェイ上に止まったセスナ。何とタイヤがバーストしています。気流も安定、ヘッドからの弱い風。ベテランパイロットも何故バーストしているのかさっぱり分かりません。機体を移動した後、事の次第を聞いても操縦ミスとは考えられません。

これは私が小型航空会社において在職中に起きた事例です。通常ならば不運なパンクや着陸が下手なパイロットで片づけられてしまいがちですが、当時の確認整備士はある疑いをもってタイヤ交換と同時にブレーキオイルを抜き始めました。なんと、そこにはオイルパンに抜いた赤色のオイルに混じって白く丸い物質が。そうです。想像出来ないぐらいの量の水が混じっていたのです。

【バーストの原因】

水は氷点下で凍り膨張します。オイルホースの中に滞留した水が膨張し、ブレーキペダルを踏んでいないのに氷点下の上空でブレーキがかかってしまった状態になっていたのです。当然そのような状態で着陸すればタイヤは着陸と同時に回転する事が出来ずバーストします。写真撮影などでは料金が発生していますから与圧が無いセスナでも2000FT/MINぐらいで降下し飛行時間を短くしています。氷点下の上空からあっと言う間に着陸すると、凍ってしまった水は地上が氷点下以上でも直ぐには水にもどりません。

【ならば何故水が溜まったのか】

C172P型ブレーキオイルの整備ではオンコンディションだったと思います。つまり何か不具合や異常があったら交換なり整備を実施することです。そうすると、小刻みにオイルを補充することにより、オイルの量が不足することに起因する不具合は回避できる可能性があります。一方で継ぎ足しの回数を増やすことで、残念なことに水分混入の機会も増えてしまいます。更にセスナ172型のオイルホースはディスクブレーキの手前でU字型に下がっていますので水はオイルより下がってそこに滞留しやすくなります。

【今後の留意点】

昔はハイドロプレーニング現象が分からず滑走路からの逸脱をパイロットの技量不足と言われていた時代があり、その後グルーピングを滑走路に施してハイドロプレーニングは減ったと聞いた覚えがあります。

今回の事例は他にもあったかもしれませんし、その時にはパイロットの操作ミスとなっていたかもしれません。

まだまだ172P型は多く飛んでいます。他機種でも類似のブレーキ構造などあるかもしれませんが、所有する会社やオーナーの方々でこの様な事例があった事を踏まえ、意図しないパンクなど冬季に発生しないためにも一度ブレーキオイルの中の水を疑ってみて、冬季シーズン前にオイル交換や点検を依頼してみてもはいかがでしょうか。

(出展 国土交通省航空局； 航空局から小型機運航者の皆様へ (第26号：令和元年12月) より)

◇ご案内

航空局では今後の小型航空機などの安全対策を更に推進していくため、電子メール等を活用し、操縦士への直接的な安全啓発や情報発信を強化することを目的として、自家用機運航者の方々を中心に電子メールアドレスの収集を行っています。
未登録の方は是非ご登録ください。

https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000012.html

★

[4] 【航空局からの依頼 周知事項】「小型無人航空機 飛行情報」

★

株式会社ゼンリンによる「小型無人航空機 補助無し 目視外飛行」に関する飛行情報等を以下よりご確認ください。

<https://www.japa.or.jp/4725>

★

[5] 【予定】 セミナー・イベント



≪第17回 小型航空機セーフティセミナー≫⇒お申込み受付中！

2020年3月5日（木）－6日（金）＜東京＞御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
<https://sites.google.com/a/japa.or.jp/small-aircraft-safety/>

※受講には事前のお申込みが必要です。

また欠席される場合は事務局まで事前連絡をお願いします。

≪第3回 RNAV 講演会≫⇒お申込み受付開始！

2020年3月22日（日）＜東京＞JAPA 会議室
<https://sites.google.com/a/japa.or.jp/rnavlecture/>

※受講には事前のお申込みが必要です。

また欠席される場合は事務局まで事前連絡をお願いします。

≪ Yes I Can 航空教室 ≫⇒お申込み受付開始！

2020年2月22日（土）＜愛媛＞松山空港ビル 2F 団体待合室 C・D
<https://sites.google.com/a/japa.or.jp/yes-i-can/>

※受講には事前のお申込みが必要です。

また欠席される場合は事務局まで事前連絡をお願いします。

≪第5回 SRM コース≫⇒お申込み受付中！

SRM コースは「TEM/CRM 基礎コース」で説明した知識を有する方を対象とします。当セミナーでは「TEM/CRM 基礎」について取り上げ

ませんので、ご了承願います。

2020年2月21日（金）＜東京＞JAPA 会議室
<https://sites.google.com/a/japa.or.jp/temcrmgs/>

※受講には事前のお申込みが必要です。

また欠席される場合は事務局まで事前連絡をお願いします。

★

[6] 【新発売】 JAPA SHOP よりご案内

★

<新発売>

JAPA-505（中国・四国）第4版

ご注文については以下 JAPA SHOP からお願いします。

<https://www.japa.or.jp/japa-shop>

★

[7] 【お知らせ】 月刊エアラインへの掲載

★

イカロス出版株式会社が発行している「月刊エアライン」2020年1月号に当協会職員が掲載されておりますので、よろしければご覧ください。

★

[8] 【ご案内】 公益社団法人 日本航空機操縦士協会 ご入会について

★

JAPA では会員を募集しております。

ご入会いただけますと、AIM-JAPAN の配布の他、団体割引を適用した、JAPA 団体保険（ロスオブライセンス）へのご加入も可能ですので、ぜひご検討ください。

詳細は以下ホームページより、ご覧ください。
皆様のご入会を心よりお待ちしております。

<https://www.japa.or.jp/member>

* * * * *

★次回の配信は1月上旬を予定しております★

JAPA メールマガジンの配信先変更方法及び配信停止方法
については以下、ご参照の上、お手続きください。

<https://www.japa.or.jp/mail-magazine>

【発行】公益社団法人 日本航空機操縦士協会

電話 03-6809-2902

メール japa@japa.or.jp

ホームページ <https://www.japa.or.jp/>
